

核兵器廃絶をめぐる動きと 2015 年世界大会の課題 （レジュメ）

高草木 博（運営委員会代表・日本原水協代表理事）

1、次のステップへ

ヴォルティモア君からのメール（要約）

… 最初、話を聞いた時は躊躇した。日本はフィリピンのような国にはけっして優しい国ではないし、日本からの投資でミンダナオも荒らされている。けれども日本のみなさんと歩き、被爆者と会い、平和のために歩くということを学んだ。今はただ、次にいつみなさんと会えるのかわからないことがつらい …

2、NPT 再検討会議の結果について

1) 「決裂」の本質的な問題

- 最終文書（案）の中東非核兵器地帯会議の招請者、招請期限をめぐる、米英が反対
- 本質的な問題は、核兵器禁止条約への言及に核兵器国、米英仏などが反対したこと
第一主要委員会の議長まとめでの言及にたいして

2) 再検討プロセス、会議を通じての最大の特徴は核兵器廃絶の流れの新たな発展

- 核兵器禁止条約の交渉をめぐる問題（メキシコ、新アジェンダ、非同盟）
- 核兵器の議論をめぐる、人間への影響への焦点の移行
アレキサンダー・クメント大使： 今回の会議を通じ、我々は、核兵器をめぐる討論とすべての国の関わりについて、パラメター、焦点、語調、バランスのすべてがはっきりと変わるのを目の当たりにした。
- 今後の方向の探求
包括的禁止条約（非同盟、軍縮会議で）
核兵器の開発、実験、保有、使用を禁止する拘束力ある措置（メキシコ、CD+国連）
オーストリアの誓い（人道の誓い）

3) 市民社会の役割（世論と運動）が次の焦点

- － 世界政治の上での変化（1980年代との比較）、政府の大半が禁止・廃絶を主張
- － 核保有国・核依存国を変える（外交は大事、だが、外交だけでは動かない。鍵は主権者の選択）
- － 被爆国、日本の運動のリーダーシップ
 - 署名： 潘基文メッセージ、アンゲラ・ケインとタウス・フェルーキのスピーチ
 - 「平和地球会議」と「平和と地球のための動員」
 - 目的は、核兵器のない平和で公正で持続可能な世界社会に根を下ろした日本のような強力な平和運動を世界に（ライナー・ブラウン）

3、2015年世界大会のポイント

テーマは、核兵器のない平和で公正な世界を

サブテーマは、被爆70年を核兵器廃絶の転機に

サブテーマは、運営委員会での議論を受け、ナヤリットなど世界的なよびかけを受けて

特徴

- 1) 被爆70年、ヒロシマ、ナガサキの実相、被爆者の願いを人類が共有財産に
(公共財、潘基文)
この間、核兵器の非人道性で世界を突き動かしてきたもの・・・ヒロシマ・ナガサキの被害の実態と告発
 - ・ セツコ・サーローさん、谷口稜暉さん、広島・長崎、全国の運動に推薦をよびかけ
 - ・ 世界の被ばく者との協力
- 2) 核兵器廃絶の到達点と課題を学び、行動する
 - ・ 国連、非同盟、核兵器の非人道性、新アジェンダなど最前線からの報告
 - 国連、インドネシア（本国）、メキシコ（本国）、他
- 3) 世界の反核平和運動、環境、格差、エネルギーなど諸分野との共同